ソーシャルワークの理論と方法(専門)

問題 28 地域活動支援センターで精神保健福祉士の実習を行っている学生Aさんは，利用者Bさんとの関係形成を進めている。Bさんから「友人ができなくて寂しい」と聞き，自分もそのような経験があって悩んだことを自己開示した。その日の実習を終え，帰り支度をしていると，Bさんから声を掛けられ「私と似たような経験をしているAさんなら，私のことを分かってくれる。友達になってほしい」と言われた。AさんはBさんから信頼されているのだと思い「実習中ならいいですよ」と答えた。次の日，Bさんから「今日から友達ね」と声を掛けられた。Aさんは昨日の対応で良かったのか心配になり，実習指導者のC精神保健福祉士に相談すると「専門的援助関係について，改めて考えていきましょう」と指導を受けた。

次のうち，C精神保健福祉士がAさんに指導した内容として，**適切なもの**を**1つ**選びなさい。

1 パターナリズム
2 非審判的態度
3 バウンダリー
4 ナチュラルサポート
5 役割拘束

問題 29 次の記述のうち，精神保健福祉士が面接で用いる「感情の反映」の説明として，**正しいもの**を**1つ**選びなさい。

1 クライエントの表現をそのまま繰り返す。
2 クライエントの話に込められている気持ちを言語化する。
3 クライエントが話したことをまとめてフィードバックする。
4 クライエントの感情を尊重し認める。
5 クライエントの思いと行動のずれを明らかにする。

問題　30　次の記述のうち，離転職を繰り返す精神障害者に対して精神保健福祉士が行うナラティブアプローチとして，**適切なもの**を**１つ**選びなさい。

1　クライエント自身の職場適応の課題を細分化し整理して，短期集中で解決を図る。

2　クライエントの語りから，問題となった出来事と本人を切り離す。

3　クライエントの離転職にまつわる思い込みのストーリーにある誤りを指摘する。

4　クライエントとの対話を通して離転職要因を１つに特定する。

5　離転職した経緯の語りから，成長を促すために機関で可能な支援の展開を図式化する。

問題　31　次の記述のうち，インターディシプリナリー・モデルによる支援として，**正しいもの**を**２つ**選びなさい。

1　入院時カンファレンスで，医師の指導により精神保健福祉士が患者の家族関係を確認する。

2　精神科デイ・ケアで，看護師が運動プログラムを担当する。

3　包括型地域生活支援（ＡＣＴ）チームで，作業療法士がクライエントの服薬状況を確認する。

4　多職種が対等な立場で参加する地域移行支援会議で，精神保健福祉士からクライエントが活用できる制度について述べる。

5　ケア会議で，就労支援及び医療機関スタッフがそれぞれ専門職の立場から意見を述べ合い支援方針を決める。

問題　32　次の記述のうち，精神保健福祉士が行うコミュニティワークとして，**適切なもの**を2つ選びなさい。

1　住民が運営し，精神障害の有無にかかわらず集えるサロンの立ち上げを支援する。

2　精神科デイ・ケアでの話合いで，地域にある居場所の見学を企画する。

3　自治会と共に精神障害の理解に関する住民ヒアリングを行い，結果をまとめる。

4　障害福祉サービスの利用を希望する精神障害者のセルフプラン立案を支援する。

5　精神保健福祉ボランティアグループの定例会で，ファシリテーターを担う。

問題　33　次の記述のうち，精神保健福祉士が行うソーシャルアクションとして，**適切なもの**を**1つ**選びなさい。

1　積極的に地域へ出向き，支援が必要なクライエントを発見する。

2　社会資源の開発のために，国や地方自治体に働きかける。

3　社会関係資本を形成するために，地域における人々の精神的な絆（きずな）を強める。

4　クライエントの支援に関する助言を他の専門職に求める。

5　クライエントのニーズを充足するために，社会資源につなげる。

(ソーシャルワークの理論と方法(専門)・事例問題)

次の事例を読んで，**問題34から問題36まで**について答えなさい。

〔事　例〕

Aさん(53歳，男性)は，35歳の時「誰かが自分の悪口を言っている」と訴えたことから，両親に付き添われてB精神科病院を受診した。そこで統合失調症と診断され，1年間入院した。退院後は両親と暮らしながら治療を続けた。その間に父親が亡くなり，49歳の時に母親が認知症を発症し，Aさんが母親の世話をすることになった。50歳の時にAさんは介護のストレスから病状が悪化し「自分の悪口がテレビで流れている」と夜中に大声を出してテレビを自宅前に放り出し，近所を巻き込む騒ぎとなり，今回の入院となった。Aさんの入院後，母親は民生委員から見守り支援を受けていたが，高齢者施設へ入所した。

入院から1年経過した後，病棟担当になったC精神保健福祉士は，前任者から「Aさんは退院可能だが，退院に消極的」と引継ぎを受け，Aさんと面談をした。Aさんは「不都合なこともないし，このままでいい。自宅は誰も居ないし，一人暮らしは経験がないし，人と話すのは苦手だから無理」と話した。(**問題34**)

C精神保健福祉士は，地域移行支援を利用して退院したDさんをAさんに紹介し，体験談を話してもらった。Dさんとの交流が半年ほど続き，Aさんは「自分も退院できるかな」とC精神保健福祉士に話した。そこで，C精神保健福祉士はAさんを地域移行支援の利用につなげ，指定一般相談支援事業所のE精神保健福祉士が支援を開始した。E精神保健福祉士は，初回面談でAさんから退院への期待や不安などの揺れ動く気持ちを聞いた。それを踏まえ，Aさんに対して支援を行った。(**問題35**)

AさんはE精神保健福祉士とグループホームを見学したが，ほかの入居者との交流に負担を感じたため，自宅への退院も考え始めた。E精神保健福祉士と共に数度自宅へ外出をした後，1人で外泊した。外泊後，E精神保健福祉士と面談したAさんは「家の中は何とかなるかもしれない。でも，近所に迷惑を掛けたので，近所の目が怖い。本当は買物にも行きたいのだけど」と話した。(**問題36**)

その後，Aさんは退院し，障害福祉サービスを利用して一人暮らしを続けている。

問題　34　次の記述のうち，この時にC精神保健福祉士がAさんに返した言葉として，**適切なもの**を**1つ**選びなさい。

1 「不都合がないなら，今のままでも悪くはないですね」

2 「では，退院先をグループホームにしましょう」

3 「退院後の生活を考えると，不安を感じるのですね」

4 「まだ50代だから，退院を諦めてはいけませんよ」

5 「退院して，あなたはどこで誰と暮らしていますか」

問題　35　次の記述のうち，E精神保健福祉士がAさんに行った支援として，**適切なもの**を**1つ**選びなさい。

1　退院した患者の定期的な集いに同行した。

2　精神障害者保健福祉手帳の取得を提案した。

3　宿泊型自立訓練の体験を調整した。

4　今回の入院の初期支援が適切に行われていたか評価した。

5　生活福祉資金貸付制度について説明した。

問題　36　次の記述のうち，この後にE精神保健福祉士が行う支援として，**適切なもの**を**1つ**選びなさい。

1　近所の目が怖くなくなってから退院することを提案する。

2　Aさんが外泊する際，Dさんに付き添ってもらうよう調整する。

3　近所との関係修復を図るために，1軒ずつお詫(わ)びに回る。

4　次回の外泊時には外出しないで済むよう，必要な物をAさんと事前に準備する。

5　Aさんと一緒に，民生委員に近所付き合いのサポートを依頼しに行く。